

---

◇深 澤 均 議 員

○議長（森元淑雄） 次に、7番、深澤 均議員の一般質問を許可いたします。深澤 均議員は登壇願います。

（7番 深澤 均議員 登壇）

○7番（深澤 均） おはようございます。通告に従って、議会録画配信の見送りについて質問をしてみたいです。

私は前期2年間、議会運営委員長として議会の意見を取りまとめた立場から、質問をしてみたいです。

まずは、これまでの議会中継について、経緯をお話したいと思います。美郷町議会では、開かれた議会を目指し、議会活性化検討会において、およそ3年間、調査、検討をしてみました。その過程では、町民の意識調査や意見交換を行い、議会の賛否を確認した上で、結論としては、録画配信で取り組むことにいたしました。しかし、令和7年度当初予算編成では、残念ながら録画配信予算は見送りとのことでした。

これまでの調査としては、議会運営委員会で先行事例として、羽後町議会、山形県庄内町議会、遊佐町議会、仙北市議会を視察研修、意見交換なども行ってきたところであります。

令和4年1月に訪れた羽後町議会では平成30年より議会中継が開始されており、意見交換では、低い視聴回数を嘆く声も聞かれましたが、現在は1定例会当たり、延べ2,000回前後の視聴になり、着実に町民の関心の高まりが見られる状況にあるようです。

また、山形県庄内町議会では平成19年から開始されているということで、2万人弱の人口に対して年間7万から10万回を超える視聴があり、町民が議会を身近に感じている様子がうかがえました。

遊佐町議会、仙北市議会では、開かれた議会は当然の役割として、カウントはしていませんでした。

また、令和6年1月、住民と議会の懇談会を3団体と開催し、その中で議会中継についてのアンケート調査を行っています。結果は、ほぼ議会中継に期待する発言があり、その内容は議会だよりを通じて町民に紹介されました。

私は、開かれた議会は、田んぼでいうところの土づくりと同様と感じています。すぐに目に見える効果は表れませんが、土づくりを重ねることで、そこには豊かな作物が育つと私は思います。言い換えれば、まちづくりの過程が議場や庁舎内だけでなく、町民から見える議会こそが豊かなまちづくりにつながるものと考えます。

私にとって、議員になって初めての議会は驚きばかりでありました。町長による施政方針や提出議案の説明、職員によるまちづくりに関する丁寧な内容説明など延々と続きます。どこのまちでも同じようなことを行っていると思いますが、紙媒体だけでは、この頑張りが町民に伝わらない状況が残念に感じています。

さきの羽後町の例ですが、各定例会において視聴回数が多いものは、町長による施政方針や提案説明、職員による補足説明の場面、あるいは予算、決算などの質疑の場面でありました。それぞれ200回から500回ほどの視聴があり、まさにまちづくりの出発点の場面であります。

私は、多くの議会が取り組んでいるように、働く方々や子育て世代など傍聴に訪れることのできない方々のために、いつでもどこでもまちづくりが視聴できる環境を整えることが議会の役割と考えます。

昨年、美郷町議会も町と同じく20周年を迎え、念願であった美郷町議会基本条例を施行することができました。今回の録画配信はその議会基本条例に基づいた取組でありましたが、議会としての意思を尊重していただけなかったことは、二元代表制において非常に残念な判断だと感じます。

そこで、見送りはなぜか、その理由をお聞かせください。

また、町民アンケート調査を行う予定のようですが、いつ行うのか、その結果をどのような基準で判断されるのか。今議会の任期が9月末であることを踏まえた町長の考えをお伺いいたします。

○議長（森元淑雄） 答弁を求めます。町長は登壇願います。

（町長 松田知己 登壇）

○町長（松田知己） ただいまのご質問にお答えいたします。

議会から要求のありました、町議会本会議の録画配信業務委託に係る予算を、ゆっくり読みます。令和7年度予算案に計上しない理由についてですが、2つあります。

1つは、録画配信に関する町民の意見聴取の場が、令和6年1月実施の町内3団体と議会との意見交換であったと承知しておりますが、参加者が23名と伺っており、実施に関する町民の意識把握としては客観的に母数が少ないのではないかとということです。

議会の情報に関しては、ホームページでの会議録の公開や議会だよりを通じた情報発信をされているところで、求めれば議会の活動を見られる環境にあります。その上で、さらに踏み込んで情報発信しようとする取組が今回の取組と認識しております。

議会の中継並びに録画配信については、メリットが多い一方で、パフォーマンスに走る議員がいらっしゃる報道や、不穏当発言に伴う混乱なども報道されているところです。こうした状況を冷静に受け止めるとともに、実施後は経常的施策となりますので、多くの町民に継続して視聴していた

だくことが求められます。

そのため、実施に関して、もう少し多くの母数で町民意識を把握することが望ましいと考え、令和7年度実施予定の1,000人規模の町民アンケートを通じ、把握、確認しようとしたものです。

もう一つが、予算編成に関してです。合併後最大の予算規模となった令和7年度予算の編成は、要求時点で約22億円の財源不足でした。プライマリーバランス黒字とする場合には、許容できる町債充当額が約10億円でしたので、差引きしますと約12億円の財源不足となります。そのため、実施を令和8年度以降に繰り延べても支障が生じない取組は、できる限り繰延べし、令和7年度予算を起因にする財政悪化を最小限にとどめることが必要と考え、全方位で要求予算の整理整頓を行いました。

そのため、議会からの新たな予算要望につきましても、研修関係の新規要望予算は計上したものの、初期費用のほかに経常的支出となる運用費用も必要な録画配信業務委託予算は繰延べの選択肢に整理したものです。

ご質問のアンケート調査については、令和7年度一般会計予算案を可決いただいた後、第3次美郷町総合計画後期行動計画策定に関する美郷のまちづくり町民アンケート調査の準備作業に入り、令和7年6月に実施する予定です。その中で、議会の録画配信に関しても項目として盛り込み、年代ごとの意向も把握するつもりです。

アンケート結果については、9月頃までにはまとめることが可能ではないかと想定しておりますので、特に若い世代から中年世代のデジタル機器の取扱いに慣れている世代の関心が高ければ、早ければ令和7年9月定例会での補正予算案に繰越金を財源に計上してまいりますし、作業的に間に合わなければ令和8年度当初予算案に計上してまいりたいと存じます。

なお、先月18日付の地元紙に掲載された、町議会と民生児童委員協議会との意見交換の記事には、議会の録画配信について、興味があっても録画を見る人がいるのか、議会での要点をできるだけ早く簡潔にホームページなどで発信してくれたほうが良いという意見もありましたので、アンケート結果を注視してまいりたいと存じます。

以上です。

○議長（森元淑雄） 再質問ありますか。（「はい」の声あり）深澤 均議員の再質問を許可いたします。

○7番（深澤 均） 町長も覚えているかと思いますが、私は10年ほど前にも議会中継について、町長の考え方を質問した経緯がございます。その当時と比べますと、明らかに町民の意識が変わっているなということを感じたところであります。それは、インターネットの環境、あるいはス

スマートフォンの普及拡大によるものだと私は感じておりますけれども、変わったのは町民だけではないと思っています。

自治体や議会も変わりつつあるようでして、さきの秋田魁新聞の報道にもありました。県内20市町村の中で、いまだ議会中継を実施していない8市町村においては、6市町村が議会中継を検討中であるという報道がありました。このような状況を見ますと、我々、美郷町議会が取り組んできた方向性は間違っていないと改めて感じているところであります。

先月でありますけれども、議会広報委員会で栃木県の高根沢町というところを視察研修してまいりました。宇都宮市に隣接する2万8,000人の町でありましたけれども、偶然にも議会の録画配信をユーチューブで行っていました。非常に興味深く、いろいろなことを矢継ぎ早に聞いてまいりましたけれども、その中で、まずは維持経費のことについて質問をいたしました。ユーチューブでありますので、基本は無料でありますけれども、数万円のソフトを導入しただけだということでありました。続いて、編集に関する職員の負担はどうですかと聞きましたところ、3人の事務局員がいるそうですが、1人の方が担当していて、ほとんど負担には感じていない模様だというような話も聞いてまいりました。また、ユーチューブでは一番デメリットなところは広告が付随するところでありますけれども、広告もきちっと遮断できるということでありましたし、不適切発言についても、まれにあるということでございましたけれども、その部分はカットして録画配信をしているということでありました。

こういう新たな方法といえますか、もちろん私どもも美郷町議会の中でユーチューブ動画の配信も検討したわけですが、職員の負担が大きいだろうということで、当時は見送ったところでありますけれども、今町長が2点、問題点として挙げられましたけれども、このことがもし解決することができるとすれば、町民のアンケートいかんにもよりますけれども、町長の共感は得られるものなのか。その辺のところをお伺いしたいと思います。

○議長（森元淑雄） 答弁を求めます。町長は自席でお願いします。

○町長（松田知己） ただいまのご質問にお答えいたします。

まず、議会の取組について、私は受け止めていますし、評価していますので、アンケート調査で確認したいということにご理解をお願いいたします。

また、令和7年度に予算計上しなかった理由は、先ほど事例として申し上げました、パフォーマンスに走るという報道がなされているとか、それから不穏当発言に伴う混乱が報道されているとか、理由ではございません。先ほど言った2つの理由、母数をもっと多くして、特に若い世代から中年世代のデジタル機器に慣れている人がどの程度賛意を示しているのかを把握することが、公金を

使う側として、執行する側としては必要であるという判断です。

それから、経費についてのお話ですが、議会からの予算要求のありました金額は数万円というものとはオーダーが2つほど違いますので、そうした冷静な判断で受け止めて、実際の予算編成に責任を持つ立場として令和7年度には計上しなかったということにもご理解をお願いしたいと思います。

いずれ、アンケート調査の結果を踏まえて、必要があれば当然ですが、対応してまいりますし、取組に対する評価も私はしております。

以上です。

○議長（森元淑雄） 再々質問ありますか。（「はい」の声あり）深澤 均議員の再々質問を許可いたします。

○7番（深澤 均） 先ほど述べましたように、議会で予算要求したものととはまた別のツールが視野に入ってきたといえますか、ある程度可能なのかなとも思っております。

それで、町長の先ほどのお話では、早ければ9月の定例会、私たちの任期が切れる前には決着をつけたいといえますか、住民のアンケート調査にもよりますけれども、そういう方向にいるという認識でいますが、どうでしょうか。それに向かって議会側と町側との協議する場を、いわゆる作業チームみたいな形での設置は望めないものかという提案をしたいと思いますが、その点についてはいかがお考えでしょうか。

○議長（森元淑雄） 答弁を求めます。町長は自席でお願いします。

○町長（松田知己） ただいまの再々質問にお答えいたします。

議員のご提案の作業チーム、作業の内容のイメージが湧きませんが、執行権を有する町長部局が、執行に必要なものは私どもが検討いたします。また、それを検討するに当たって、議会のご意見が必要であれば、私どものほうからご意見を頂戴します。

以上です。（「分かりました」の声あり）

○議長（森元淑雄） これで7番、深澤 均議員の一般質問を終わります。